るーむ301 シリーズ1

卒後研修委員会

第七回　指導医、研修医との「交流会」を開催して

卒後研修担当理事　片　岡　晃　哉

新卒後医師臨床研修制度が平成16年度より始まり、この時府医で指導医と研修医の「交歓会」が開催されたことを参考に、平成19年度に北区医師会で第1回「交歓会」を開催し、その後「交流会」として毎年開催しています。

今回は、平成25年10月19日(土)北区堂山町のホテル大阪東急インで、第106回北区医師会学術講演会(大橋耳鼻咽喉科・アレルギー科医院の大橋淑宏先生による『花粉症の薬物療法』)にひきつづき北区内の臨床研修指定病院の指導医と研修医、北区内の地域医療研修に参加している診療所の指導医が集まり開催されました。

今回の「交流会」には残念ながら済生会中津病院が参加できませんでしたが、例年どおり和やかな雰囲気の中で楽しく参考になる話がいろいろと聞けました。北海道の夕張で研修された話も聞

［当日の出席者（医師　敬称略）］

北区医師会長…古林光一

研　修　医…山下　勝、関原孝之、中村聡宏、入江浩之、半田貴也、寺田祐太（以上 北野病院）、小幡　翔、川田裕美、川知祐介、塚本美香、平野博久、細木　聡、山縣洋介、柏木理佐、神谷　香、烏野侑子、紀田修平、長谷川優妃、濵田雄一（以上 住友病院）

病院指導医…中村　肇（北野病院）、木内俊一郎（北野病院）、山本浩司（住友病院）

診療所指導医…本出　肇（本出診療所）、大原裕彦（大原クリニック）、片岡晃哉（兵田クリニック）、辻　景俊（辻クリニック）、波多野泉（ハタノクリニック）、北村興一（北村扇町診療所）

くことができ、地方が一人でも多くの医師を必要としていることが実感されました。また南三陸で研修予定の医師もあり、済生会中津病院も東北での研修を予定されていたようです。

新卒後研修制度が始まった当初は、大学が医師の確保に困難な時期もありましたが少しずつバランスが取れてきているように感じられました。ただ、臨床に比べ基礎医学は極端な減少傾向が続いており、今後日本の医学がどうなるのか心配です。

話は変わりますが、今回も府医の大阪府臨床研修制度委員会に出席してきました。大阪府医師会主催の「指導医のための教育ワークショップ」に関するものが主ですが、毎年(土)(日)の2日間で開催されるため診療所の医師は参加しにくいと毎回申し出たところ、平成25年度は平成25年12月22日(日)から23日(月・祝)の2日間で開催が決まりました。そこで今回は北区医師会から7名が参加しました。

北区内診療所医師の参加者（順不同、敬称略）：古林光一（古林医院）、大原裕彦（大原クリニック）、千福貞博（センプククリニック）、本出肇（本出診療所）、辻景俊（辻クリニック）、不藤哲郎（循環器科・内科　不藤医院）、片岡晃哉（兵田クリニック）。

北区以外の診療所の医師の参加は2名で他は研修指定病院の医師で計43名（定員40名）でした。この「指導医のための教育ワークショップ」とは、医学生や研修医の教育に携わる医師会員が指導者としての研修指導能力を身につけるため行なう研修目標をはじめとする研修カリキュラム作成のトレーニングや、コーチング等の考え方を用いてロールプレイやディスカッションによる実践的なワークショップ形式の講習会で、また研修指導に関する困難な問題について参加者が互いに議論するものです。参加前は宿泊を含め2日間にわたる講習でさぞかし疲れるだろうと考えていましたが、内容が講演講義でないため眠る暇もありませんでした。今後の研修指導に役立てたらと願っております。なお、このワークショップを受講すると厚労省の医師の臨床研修に係る指導医講習会の開催指針に基づいており、修了者には指導医の資格の根拠となる修了証書が与えられます。年1回開催されておりますので興味ある会員の先生方、一度参加してみられたらいかがでしょう。少なくとも私は思っていたより楽しく面白かったです。

最後に、今回の指導医と研修医の交流会開催に杏林製薬(株)の皆様には共催として多大なご協力を賜り、この場を借りて感謝いたします。

地域医療研修、特に僻地研修に関して

一般財団法人住友病院　総合診療科
山本浩司

現在の初期臨床研修制度は平成16年に開始され、22年度に制度変更がなされました。地域医療に関しては保健が外れ、地域医療単独で1ヶ月の研修を行うことが義務付けられたのが大きな変更点です。平成22年まで当院は北区医師会の先生にお世話になりつつ、保健所に2人、そして住友関連の企業診療所に6人お世話になっていました。制度変更で保健所と企業診療所どちらも地域医療としては認められないため、大きな変更を余儀なくされたわけです。

研修2年目となる平成23年から北区のより多くの先生にお世話になるとともに、偶然私の高校の後輩である藤原靖士先生が診療所長をしていた奈良の月ヶ瀬診療所に2人お世話になることになりました。大阪市内とは異なる環境の中での医療を経験でき、

たくましくなって戻って来た印象を持ったものです。

その月ヶ瀬の藤原先生が平成25年４月に南三陸診療所に転勤するという報を受け、再度対応を迫られることとなりました。そのまま月ヶ瀬の後任の先生にお願いするという選択肢もありましたが、東日本大震災の被災地でもある南三陸に赴く方が研修医が得ることは多いと考え、南三陸診療所と研修契約を結び引き続き藤原先生にお世話になることにしました。さらに夕張市立診療所と研修協力施設としての契約が締結でき、そこにも研修医が赴くことになりました。

８月にお世話になった夕張はそもそも石狩炭田の中心として、また特産品として夕張メロンがあり馴染みのある都市です。むしろ最近では財政破綻したことで有名で、人口減少率は全国の市の中で最大であり、人口が１万人を割り込んだことが話題になっています。町として栄えていたころはいち早くＣＴが導入されたとのことですが、現在は医療も縮小に向かい、そのＣＴはメインテナンスさえされず使えなくなっています。研修医は大阪とのギャップに驚いたようです。高齢化や人口減少は大阪のような都会でもいずれはやって来ることであり、他人事ではなく今から対策が必要だと思います。

南三陸に関しては被災地ということもあり、こちらも研修医が即戦力として期待されるほどの人手不足だったようです。初日から日中、当院でいう一般内科初診外来を行いながら救急車の対応をしたのですから、病院研修とはギャップが激しかったでしょう。南三陸に赴いた大隈宏通先生は自身が小学生の頃、阪神淡路大震災で自宅が半壊したという経験をしており、震災というものを理解しています。それでも今回の東日本大震災からの復興が想像以上に進んでいないことに驚いていました。

夕張に関しては研修した川田裕美先生が平成25年10月19日に開かれた北区医師会の交流会で報告を行いました。南三陸に関しても来年何らかの形で報告をしたいと考えております。

当院は今後も北区の先生を中心に地域医療研修を進めていく中で、僻地医療を含めたよりよいシステムを構築したいと考えております。

今後とも宜しくお願い申し上げます。

【卒後研修の感想】

地域医療研修を終えて

一般財団法人住友病院　総合診療科
平　野　博　久

２０１３年６月に一ヶ月間地域の診療所で研修をさせて頂きました。私は北区を中心に守口市の診療所でも研修させて頂きましたが、診療所と一言で言っても、各診療所の先生の診療科や設備、患者層は多種多様であり、各診療所毎に違った経験、また市中病院である住友病院での研修とは違った経験ができました。本誌へ寄稿する機会を頂きましたので、地域医療研修の一ヶ月間を振り返り、その中で感じたことを寄稿致します。

先述しましたように各診療所の診療科は内科や耳鼻咽喉科など様々で、また上部や下部の内視鏡検査機器を備えていたり、最新の超音波検査機器を日常の診療に使用されていたりする診療所もありました。患者層は北区という土地柄もあるのか、仕事前やその合間で受診している方が多い印象でしたが、先生の診療を受けるために遠方からお越しの患者さんもおられました。そのような環境の中で毎日新しいことを学ぶことができました。先生方は非常に熱心な方ばかりで診療の合間にこれから診察する患者さんの病歴や、診察した患者さんについてどのような鑑別を考えていたかなどを詳しく説明して頂き、またこちらから質問をすると丁寧に教えてくださいました。住友病院では一人の先生と一日一緒に診療にあたることはまずないので、熟練された診療をみることができたのは新鮮でしたし、独学では気付けなかったような点まで教えてくださいました。

地域医療研修で特に印象的であったのは漢方薬が多く処方されていたことです。また先生方は勿論のことですが、患者さんの中にも漢方薬に精通されている方が少なからずおられたことも驚きました。漢方薬の名前や番号、作用などを覚えていて、「〜のような症状があったから、この漢方薬を試してみたい」と言うと、先生が診察を行い患者さんと相談しながら漢方薬を処方するというような場面を見ることもありました。私は学生の頃からセミナーに参加するなど漢方薬に興味を持っていました。しかし、いざ研修が始まると西洋薬の種類の多さに圧倒され、その名前や作用を覚えることで精一杯で、漢方薬は大建中湯や芍薬甘草湯などごく限られた種類のものを処方したことしかありませんでした。地域の診療所の先生方は陰陽、実虚を踏まえ様々な漢方薬を使いこなしておられ、勉強不足を痛感しました。また漢方薬の患者さんからのニーズの高さも実感しました。西洋薬を含め、漢方薬についても地域医療研修で勉強する機会を頂き、その後の住友病院で

の研修に活かすことができています。
また地域医療研修の一貫として往診に行ったり、社会保険診療報酬支払基金を見学したり、普段とは違った視線で医療に取り組むことができました。一ヶ月という短い期間でしたが、病院での研修だけでは気付けなかったであろうことに気付くことができ、とても有意義な時間を過ごすことができました。
最後になりましたが、私たちの研修を受け入れてくださった各診療所の先生方、またスタッフの皆様には大変お世話になり、心から感謝致しております。本当に有難うございました。

地域医療研修の感想

公益財団法人田附興風会医学研究所北野病院
研修医　熊　谷　尚　悟

去る平成二十五年八月、北区の開業医の先生方の下で地域医療研修を受けさせていただきました。ご指導いただいた皆様への感謝の気持ちとともにご報告申し上げます。
これまで、一ヶ月から二ヶ月ごとに内科・外科・麻酔科・救急部などをローテートしました。主に救急外来において、わずかながら外来診療の経験もありましたが、地域に根ざした外来診療を経験できたことは新鮮であり、非常にたくさんのことを学ばせていただきました。
その中でもとりわけ勉強になったのは、やはり先生方の患者様との関わり方です。患者様の既往歴や症状の経過だけではなく社会的背景や家族構成まで十分に把握され、患者様に応じてより日常生活が豊かになるような細やかなアドバイスをかけられる姿がありました。日常の中で患者様が抱える問題点に親身に対応し共に解決しようとする姿勢に非常に感銘を受けました。教科書や論文を読むだけでは習得できない長年の経験に基づいた高度な診察技術をもとに、限られた情報の中で素早く的確な判断を下されていました。また、必要であればすぐにＣＴやＭＲＩ、内視鏡などの検査が行える施設や入院が可能な施設へと紹介し、検査や入院が終わった患者様はかかりつけの先生の下に戻ってこられるように開業医の先生方同士の連携や総合病院とのネットワークを整えていらっしゃいました。地域医療を展開するためにはこのような体制が必要不可欠であることを再確認すると共に、私もこれまで以上に地域連携を意識して診療にあたらなければならないと痛感しました。一ヶ月という短い期間ではありましたが先生方から勉強させていただいたことを今後の診療に活かし、患者様に還元できるように今後も研鑽して参りたいと存じます。
ご多忙にも関わらず貴重な時間を割いてご指導いただいた先生方、お世話になったスタッフの皆様、研修医の同席を快諾してく

ださった患者の皆様へ心より御礼申し上げます。今後とも御指導、御鞭撻の程、宜しくお願い申し上げます。

地域医療研修の感想

公益財団法人田附興風会医学研究所北野病院
吉　田　繁　央

平成25年7月の1ヶ月間、地域医療研修の一環として、北区医師会の先生方のご厚意のもと診療所研修をさせていただきました。お世話になりました皆様への感謝とともにご報告申し上げます。

5ヶ所の診療所で曜日ごとにお世話になり、北区では、兵田クリニック、本出診療所、ハタノクリニック、八杉クリニックで研修させていただきました。

研修では、実際の外来診療を見学させていただき、各症例に関して丁寧にご指導頂きました。また、エコー等の検査や関節穿刺などの手技を手とり足取り教えていただき、非常に勉強になりました。

外来診療を見学している際に一番印象に残ったことは、各先生方の患者さんへの関わり方です。病気の診察はもちろんのこと、その患者さんの社会的背景や家族構成まで把握し、患者さんの抱える問題点に対し、親身になって対応している姿を見て非常に感銘を受けました。

患者さんに密着した診療の中で良好な医師―患者関係が築かれ、地域の健康増進につながっているのだと実感しました。

また、そのような患者さんと医療者との関係性だけでなく、実際の診療においても違いがあることを再認識しました。

北野病院では血液検査やＣＴ、ＭＲＩなどの精査を迅速に行うことが可能ですが、診療所ではそのような検査にはすぐに頼れない状況でした。その中で、詳細な問診や身体所見、超音波など可能な範囲の検査で正確に診断されており、問診・身体所見の重要性を教えていただきました。検査に頼りがちであった自分を反省するとともに、自らの今後の医療に生かして行きたいと思います。

最後になりましたが、お忙しい業務の中、親切にご指導くださった先生方、看護師、事務さん、ならびに研修をコーディネートしてくださった方々に心より感謝を申し上げます。常に、地域の診療所をはじめ、多くの方々に支えられて日常診療を行えることを肝に命じ、これからも診療にあたってまいりたいと思います。今後ともご指導、ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。